

令和4年度 1学期終業式 校長式辞要旨

・コロナ禍収束のきざしが依然として見えない中、学校生活で生徒諸君には引き続き不便をかけるが、感染防止のために全員で協力して乗り切ってほしい。

・スマホの校内での使用ルールの変更など校則の見直しについて、生徒会と生徒指導部の職員が中心となり対話を続けている。スマホの校内での使用について、直接校長室に来て意見を言ってくれる生徒もいた。

自らの意見を外部に表明するという姿勢は、とても大切なことである。自分たちの学校のことを自分ごととしてとらえ、真剣に考えてくれている姿勢は喜ばしい。

よりよいルール作りのために今後も生徒諸君の知恵を借りたい。

・多くの生徒諸君が自らの学校のルール改変に真剣に取り組んでいる中で、今一度マナーについて皆さん自身でよく考えてもらいたい。

我が国におけるマナーの源流は、儒教的価値観の上に成り立っている。「論語」「大学」「中庸」「孟子」の四書、「詩経」「書経」「易経」「礼記」「春秋」の五経の中にその答えが詰まっている。

2年後に1万円札の柄になることが決まっている明治初期の実業家渋沢栄一氏は「論語とそろばん」を重視した。儒教的価値観を重視したということである。

アメリカの人類学者ルースベネディクトは著書「菊と刀」の中で、欧米が「罪の文化」であるのに対して、日本の文化は「恥の文化」であると述べている。

「美しく生きる」とはどういうことであるのか。「恥ずかしくないふるまい」とはどのようなものなのかを先人が積み上げてきた文化の中から知らねばならない。

本校生徒に対しては「美しいふるまい」を大切にしてもらいたい。

・制服についてのルールは一部改定し、2学期からスラックスとスカートを自由に選んで着用できることとする。特に本校は自転車通学が多いこともあり、女子のスカートは冬場の通学時に寒いという声をきいていた。本日、文書を配布するので各自で判断してもらいたい。

・長い生涯の中で高校生の夏休みというのは短いがとても貴重な時間である。ボランティア活動や読書、スポーツ等、普段できない体験に大いに取り組んで欲しい。